

■ 離職率半減 ■ 市外・県外から就職希望者

事業所内託児所 人材確保に効果

鹿屋・紘徳会

子育て中の親にとって、子どもの預け先の確保は仕事の継続や再就職のために不可欠だ。鹿屋市輝北町市成の社会福祉法人紘徳会みどりの園は、職員の定着を目指して敷地内に職員用の託児所を整備。その結果、結婚や妊娠による女性を含む離職率が半減したほか、市外からの就職希望者も現れている。託児所設置が人材確保に効果があるようだ。

「○○ちゃん、ママがお迎えに来たよ」。午後6時前、敷地の一角に建つドーム型の託児所「ピッコロドーム」に、仕事を終えた母親らが相次いでやって来た。帰り支度を済ませてブロック遊びをしていた子どもたちは、母親の顔を見つけるとうれしそうに駆け寄った。

2歳の万福陽菜ちゃんを迎えに来た母の千鶴さん(28)＝霧島市＝は、敷地内の診療所で働く看護師。「赤ちゃんのころは、休憩時間

際に取得する人はいなかった。職員の2006年の離職率は33・3%と高く、定着が大きな課題となっていた。

「介護は提供するサービスの質が利用者の満足に直結する、人が財産となる仕事。キャリアを積んだ人がやめるのは、会社にとって大きな損失」と吉元みどり施設長。結婚や出産を経て

も働き続けたいという職員の希望を受けて07年5月に保育所を設置した。設置にかかった費用は全額事業所負担で約1千万

円、運営費も年間約600万円と決して少ない額ではないが、吉元施設長は「コストではなく人材育成のための投資」と話す。

託児所設置後、同法人では結婚や妊娠でやめる職員がほとんどいなくなったという。これまでに4人が育休後職場復帰し、さらに現在5人が産休・育休中。08年の離職率は約17%と2年間半減した。

また、託児所があるという理由で就職を希望する人や、面接の際に託児所も見学する女性も増加。県外出身の学生や市外在住者など、以前はなかった人から

の応募も寄せられるようになった。

グループホームに勤める介護福祉士の日高夏樹さん(29)＝霧島市＝は、次男の凜君(2)が1歳のとき就職。「託児所があるからここを選んだ。昼間の様子が心配な時など、内線電話で様子を聞けるので、安心して働ける」と話す。

法人では、06年は約60人だった職員数が、07年80人、08年90人と年々伸び、09年は約110人になった。浜田博・事務管理室統括は「給与改善などほかの施策の影響とともに、託児所の効果が大きいとみている。

鹿屋市内に97力所
1年で6力所増

09年4月現在

鹿屋島県(4月1日現在)と鹿屋島市(3月31日現在)のまとめでは、県内の事業所内託児所は97力所で在籍児童数は1398人。2008年の同時期より6力所58人増えている。看護師など女性職員の確保が必要な医療機関の設置が多い。



施設内の保育所・ピッコロドームで過ごす子どもたち＝鹿屋市輝北町市成の社会福祉法人紘徳会みどりの園

1988年に開設した同法人は現在、介護老人福祉施設や診療所、グループホ